

コラム

海外工場への技術教育を行う「マザー工場」としての機能・・・(株) 南武

(株) 南武は、東京都大田区を拠点とする油圧シリンダメーカーである。自動車エンジン向けアルミ製品の製造に使用される金型用中子抜きシリンダや、製鉄所で活用される鋼板巻取り用のロータリージョイントなどの主力製品はいずれも国内外で高いシェアを誇る。

同社は、他社の模倣ではない独創的な発想に基づいてものづくりに取り組んできた結果、「金型シリンダ」というニッチな分野において業績を伸ばし、確固たる地位を築き上げた。耐久性に富む製品、他品種少量生産や短納期発注といった顧客ニーズへの対応力は、海外顧客からも高く評価されている。

2002年にはタイ・アマタナコン工業団地に生産子会社を設立。油圧シリンダの業界の中では先駆的な海外展開であった。2006年には、大田区が中心となってタイ国内に設立された「オオタ・テクノ・パーク」に参画し、生産機能に移転拡大。さらに2012年には、めっき設備を備えた新工場を建設するなど、10年でタイにおける事業は大きく拡張している。

また中国においては、2010年に上海近郊の武進ハイテク産業開発区に製造拠点を設立。現地に進出している日系及び欧米系自動車メーカーのエンジン部品需要を取り込み、確実に生産を伸ばしている。

近年、日米欧の大手メーカーによる海外進出・現地生産の増加に伴って、タイ・中国内における技術に対する要求水準が高まっている。これに対応するために、同社は日本から熟練の技術者を派遣して現地従業員に対する技術指導を行うことで、海外工場の技術向上に努めている。同社では今後も海外市場における技術要求水準は高まると見ており、日本国内の製造拠点は、海外工場への技術教育を行う「マザー工場」として重要であると考えている。

また、基礎的・定型的な設計は海外子会社で直接行っているが、より上位の付加価値が高い設計・開発については、引き続き日本国内で実施している。日本製の金型は性能・品質面で優れていることが世界的に知られており、それだけに日本国内の金型メーカーからの技術要求は厳しい。同社としては、これら国内の高度な顧客ニーズに対応できる優れた技術や付加価値の高い生産機能を引き続き国内に維持していく。

海外市場が重視される中で、同社の優れた技術のプラットフォームであり、競争の源泉である国内の「マザー工場」の重要性はさらに高まっていくであろう。



写真：海外工場で現地従業員に技術指導を行う様子